

第4次 豊後大野市地球温暖化対策実行計画
令和5年度実績報告

目標	温室効果ガス排出量			増減状況	
CO2 排出 38% 削減	基準年度 (参考値)	目標年度	取組結果	25.8%減	(単位: kg-CO2)
	平成29年度	令和12年度	令和5年度	2,945,956減	
	11,409,000	7,073,000	8,463,044		

令和5年度の実績については、基準年度の平成29年度の補正值と比較して28.5%の減となっています。エネルギー別の主な状況としては、全体の85.72%を占める電気の排出量が補正值の34.6%減、A重油が補正值の74.5%減、ガソリンが補正值の26.1%減となります。

温室効果ガス排出の大半を占める電気の排出量減の主な要因として、電気の使用量は増加していますが電力供給業者の排出係数が減っていることが挙げられます。九電の排出係数は平成29年度の0.462から令和5年度は0.407に減り、ぶんごおおのエネルギーは平成30年度の0.531から令和5年度は0.303に減っています。

A重油の排出量減については白鹿浄化センターの使用燃料が令和2年度にA重油から灯油に変更となったことが挙げられます。

自動車走行量については補正值と比べ、約250,000kmの減であり、温室効果ガス排出量については、ガソリン車で14.9%減、ディーゼル車で5.2%の減となります。

令和5年度からは、第4次実行計画へと移行し、対象範囲が広がりました。基準年度以降に新設された施設などもあり、全体の温室効果ガス排出量は減少していますが、項目によっては使用量が増加しています。

今後も電気使用量を中心に全体的な伸びを抑える取組みの継続が重要だといえます。

注意事項

- ①今回の実績は「道の駅おおの」の電気使用量が把握できなかったため、温室効果ガス排出量に誤差があります。
- ②比較のため、基準年度時になかった施設、未集計施設の実績値を加えた補正值を使用します。
加算した施設については表下部をご覧ください。

項目	単位	H29	H29	R5		温室効果ガス 排出量の増減率	
		(基準年度)	(補正值)	実績	CO2排出量 の構成割合	基準年度比	補正值比
温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算値)	kg-CO2	11,409,200.0	11,832,995.1	8,463,043.9	100%	△ 25.8%	△ 28.5%
ガソリン (混合油含む)	kg-CO2	255,551.3	286,300.8	211,573.1	2.50%	△ 17.2%	△ 26.1%
	使用量	L	110,151.4	123,405.5			
灯油	kg-CO2	768,522.8	814,383.6	639,931.2	7.56%	△ 16.7%	△ 21.4%
	使用量	L	308,643.7	327,061.7			
軽油	kg-CO2	69,072.0	72,437.1	75,819.8	0.90%	9.8%	4.7%
	使用量	L	15,458.5	16,762.8			
A重油	kg-CO2	823,352.2	823,352.2	209,564.3	2.48%	△ 74.5%	△ 74.5%
	使用量	L	303,820.0	303,820.0			
液化石油ガス (LPG)	kg-CO2	21,787.0	63,700.0	61,851.0	0.73%	183.9%	△ 2.9%
	使用量	m ³	3,649.5	10,670.1			
電気	kg-CO2	9,460,655.0	9,761,265.3	7,254,397.6	85.72%	△ 23.3%	△ 34.6%
	使用量	kwh	20,714,724.0	21,677,839.0			
自動車走行量 ガソリン車	kg-CO2	9,519.3	10,757.7	9,150.1	0.11%	△ 3.9%	△ 14.9%
	走行距離	km	1,280,059.0	1,441,217.0			
自動車走行量 ディーゼル車	kg-CO2	740.4	798.4	756.9	0.01%	2.2%	△ 5.2%
	走行距離	km	123,198.0	130,661.0			

○補正施設・設備

〈俵楽の郷、ゲストハウスLAMP、井崎キャンプ場ポンプ、道の駅(みえ、きよかわ、原尻の滝、あさじ、おおの)、西広場、トンネル・橋梁照明、千歳小中学校、消防本部(非常備車両)、豊後大野市民病院(車両) 他〉